



# YMCA

月刊 The YMCA 付録

編集・発行 / 日本 YMCA 同盟 東京都新宿区本塩町7番地  
大阪青年 発行：末岡祥弘 編集：大阪 YMCA 広報室  
〒550-0001 大阪市西区土佐堀1-5-6  
TEL06-6441-0894 FAX06-6445-0297  
URL: http://www.osakaymca.or.jp/  
(年10回発行) 1947年10月27日 第3種郵便物認可

## 大阪青年

2007 Jul. 7  
Aug. 8  
No. 597

2007年度年間聖句

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。  
どんなことにも感謝しなさい」

(テサロニケの信徒の手紙1 5章16~18節)

### 大阪YMCAの使命

大阪YMCAは、聖書に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、YMCAの世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。

- ボランティア精神をはくくみ、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。
- すべての世代の人びとが、出会いと生きがいを見いだすための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。
- 未来を築く力強い子どもたちを、家庭、地域社会と共に育てます。
- 生命を尊重する心を養い、自然と人間が調和する働きをすすめます。
- 世界の人びとと力を合わせ、環境、人権、貧困の課題に取り組み平和で公正な世界をめざします。

# 「今あるものを人々のために用いなさい」

ある大学の人間科学部の学生達が、「人がイキキしているのはどんな時か」について話し合いました。その結果をいくつかにまとめた中の一つに、「誰かに役立つていることを実感する時」がありました。阪神大震災での若者達のボランティア活動と考えると、彼らが大切なことに気づき、そして求めていけることが分かり希望がわきます。

マタイによる福音書14章に記されている五つのパンと二匹の魚の物語がわれわれに語りかけているメッセージは、「今あるものを人々のために用いなさい」にほかなりません。



背景写真「YMCAボランティアによる炊き出し」(西神戸YMCA)

能力であれ、時間であれ、財であれ、あるいは自分自身の存在であれ、それを誰かのために用いる時、最も恵まれ、最も喜びに満たされるのは用いた者自身ではないでしょうか。

設立以来、数々の困難を乗り越え、風雪に耐えて今日を迎えた大阪YMCAを支えたものは、「地の塩・世の光」であることの誇りと、「誰かに役立つ喜び」でした。

125周年を迎えるに当たって、広く世人を益することを目指して発足したYMCA運動の原点に、改めて思いを馳せたいものです。

学校法人大阪キリスト教青年会理事

西村

耕

ペトロの手紙I 4章10

「あなたがたはそれぞれ、

賜物を授かっていていられるのですから、

神のさまざまな恵みの管理者として

その賜物を生かして互いに仕えなさい」

### 地の塩

▼夏は、YMCAにとって最もプログラムの多い季節である。野外活動や国際交流のプログラムが展開され、多くの青少年が街なかの喧騒や枠組まれた日常生活から解放され、自然との出会いや異空間での生活を体験する。今日では、地球環境や自然の大切さを訴えるニュースを毎日のように目にする。YMCAでは、自然に親しみ、自然と触れ合いながら青少年の人格形成に努める野外活動の歴史が、連続と続いている▼日本最初の教育キャンプは、大阪YMCAが1920年(大正9年)六甲山麓の南郷山で実施しているが、今年の夏で87年を数える。今の六甲山YMCAは、1951年(昭和26年)に六甲キャンプ場として開設され既に半世紀を超え、4年後には還暦を迎える。また、海洋センターがある阿南は、39年前の1968年(昭和43年)にスタートした。こうした施設を拠点に繰り広げられる野外活動プログラムは、青少年に、自然や仲間との出会いと感動を与えて来た。夏が巡り来るたびに、こうした思い出が甦り、人生の新たなエネルギーともなっていく▼最近、青少年の間では、3Kにつながるキャンプや山登りなどの野外活動への関心が薄いようである。山はすっかり中高年に占拠されてしまった。しかし、若い時にこそ、自然や仲間、そして自分と真正面から向き合う野外活動に汗を流したいものだ。そこには、色々な発見と経験がある。さまざまな出会いと自己を見つめる場がある。野外活動の中にこそ、YMCAの理念や主張がある。YMCAが誇り得るプログラムである。この夏、パソコンから離れ、野外に出かけてみよう。新たな発見が待ち受けている。(善)